

全人教だよ



ふれあい

発行所：鳥取県人権教育推進協議会（県人教）

〒680-0846 鳥取市扇町21 県立人権ひろば21ふらっと内

電話：0857(22)0578 FAX：0857(22)0593

発行者 岡崎 周治

第71回

参加者1万1千人超！

全国人権・同和教育研究大会開催！

2019年11月30日（土）12月1日（日）、全国各地から約11,000名の参加者が集まり、三重県津市のサオリーナ（津市産業・スポーツセンター）をメイン会場として第71回全国人権・同和教育研究大会が開催されました。2日間にわたる分科会では計108本の報告があり、大会テーマ「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」のもと、各会場で熱心な討議が行われました。鳥取県からも2本の報告を行いました。



大会宣言

「人権文化を確かなものに」
すべての子どもの自己実現
すべての人が

自分らしく生きることのできるまちづくり
互いに協働しながらのネットワークづくり

しかし、今、私たちは問われている
生まれや居所が差別につながる理不尽
自分のありのままの表現が通らない閉塞
分けられた暮らしを強いる社会的障壁
人の尊厳を踏みにじる差別行為

共生をめざす社会の分断は許されない

採択30年を迎えた子どもの権利条約の精神が
改正子どもの貧困対策推進法に盛り込まれた

子どもの現在及び将来が
その生まれ育った環境によって
左右されることがないように

その意見が尊重され
その最善の利益が優先的に考慮される
人権教育実践の中心課題
子どもはその活動の中で
学びを深める

「差別の現実から深く学ぶ」
人権・同和教育の営みをもとに
一人ひとりが人権問題を「自分ごと」としてきた取組を
交流し議論し次の実践へとつなぐ
三重から「ともに生きる」社会の発信を

2019年11月30日

第71回 全国人権・同和教育研究大会

大会総括については、全人教の広報誌「であい」12月号に掲載されています。分科会総括については1月号以降に掲載されます。また、「分散会のまとめ」は全人教ホームページに公表される予定です。

鳥取県から次の2本の報告が行われました。

- 「自分とつなげる、仲間とつながる人権学習をめざして」 南部町立西伯小学校
- 「ともに歩む今を」 ～いのちの輝きを感じながら、仲間として、チームとして～ 岩美町立岩美北小学校

今回は南部町立西伯小学校の報告の概要を紹介します。岩美北小学校の報告は、次号167号(2020年1月発行予定)に掲載します。

<第1分科会 人権確立をめざす教育の創造 第8分散会>

報告者 南部町立西伯小学校 河上英仁さん 船越康裕さん
題名「自分とつなげる、仲間とつながる人権学習をめざして」

<報告の概要>

カリキュラムの見直し

長年続けられてきたカリキュラムでは、6年生の社会的立場の指導を約2週間で集中的に行う「人権集中学習」と同じ時期に他の学年もそれぞれの学年ごとに設定された人権課題を学習していました。しかし、生活との結びつきが希薄で明確な系統性もないという課題を抱えていました。そこで、見直しを進め、学年ごとのテーマを明確に設定し、自分自身の生活と重ね合わせながら課題を追究していくことをめざして、4年生では「障がい者の人権」を、5年生は「男女の人権、性的マイノリティ」を、6年生は部落問題を学習し、自らが設定したテーマを探求する「人権フォーラム」を開催することとしました。

人権フォーラムでのAさんの発表

Aさんは特別支援学級に在籍していた児童です。彼の抱える大きな困難さは、交流学級の教室の中に入って友だちと一緒に学習するのが難しいことでした。Aさんは同じクラスの友だちが大好きで、みんなと一緒に学習したいと思っていました。ただ友だちの何気ない会話の声をうるさく感じたり、教室に入るとき自分に向けられるみんなの視線が気になって緊張したりして、教室に入ることが難しかったのです。高学年になるにつれ、Aさん自身は、自分のそのような特徴、発達障がいというひとつの障がいであることを意識し始めたようです。同じクラスの友だちは、そんなAさんの特徴を理解し、大切な同じクラスの仲間として接していました。教室での話し声が必要以上に大きくならないように気をつけたり、彼が活動に入れないときには、優しく声掛けをしてくれて無理にやらせるのではなく、彼のペースでできるようにしたりしていました。

6年生の人権学習では、部落差別について学習しました。渋染め一揆の学習では、勇気をもって行動を起こした人々から、困難な事に立ち向かう勇気とそれを支える仲間の大切さについても学びました。解放運動で活躍している女性をゲストティーチャーに招き話を聞いた時には、『障がいのある人でも、必ず出来ることがある。』という言葉が特に印象に残った。みんなのために、また身近な人を幸せにするために自分に出来ることは何なのかを考えていきたい。』という感想を書いています。

人権学習のまとめとしての人権フォーラムに、彼が選んだテーマは「障がい者の人権、特に理解されにくい障がいを持つ人の人権について」というものでした。この中には、Aさん自身のもつ発達障がいが含まれています。この発表の中で、自分にも障がいがあることを含めて友だちに



伝えようとしているのでした。

Aさんが人権課題に正面から精一杯取り組んだことにとっても感動したと同時に、彼がカミングアウトすることへの不安もありました。受け取り方によっては彼に不利益があるのではと心配したのです。しかし、彼の決意は固く、「ぜひ書きたい。」との返事が返ってきました。Aさんの保護者に発表の了解を得る時、お父さんはこんなお話をされました。「ある授業参観の時、なかなか友だちの中に入れず苦しんでいた息子を友だちが仲間として受け入れてくれている様子を見てうれしかった。そんな友だちなら、きっとわかってくれると思ったのでしょうか。やらせてやってください。」

人権フォーラムでは、たくさんの人に発表を見てもらうことができました。「Aさん、自分のことを発表するなんてすごいね。」という声も聞こえました。それを会場の後ろで見ていたAさんは、どことなく誇らしそうに見えました。後にAさんに、友だちに発達障がいのことを打ち明けることにためらいはなかったか聞いてみると、「みんなを信頼していたから大丈夫でした。」と答えていました。彼を支えていた友だちの力が大きかったことを物語っています。彼の良いところは、自分の障がいの認知がマイナスではなく、自分の特性として受け入れることができた事ではないかと思っています。彼は将来の職業について小学校の時から変わらない夢を今でも持ち続けています。その実現に向けて自分と向き合いながら一緒に支え合う友だちを大切にしながらこれからもがんばってほしいと思います。

<質疑・討議から>

西伯小学校の報告に対して会場からは、「しっかりした計画のもとにされた実践だ。」「Aさんの発表を受け入れることのできる学級づくりがされている。」等の感想が聞かれました。そして、カリキュラムの詳しい内容や、6年生の部落問題学習の進め方等についての質問が出されました。その後の討議では（総括討論も含めて）「カミングアウトの意義」や「マイノリティが語る事の必要性」についての意見が出されました。西伯小からも「カミングアウトそのものが目的ではなく、それを受け入れる仲間づくりが大事である。」という話がありました。多くの参加者が、報告を通して自分の今の取組をふり返りながらの活発な議論が行われました。

<実践報告協力者(司会者)として全人教大会に参加して>

とっとり震災支援連絡協議会 佐藤 淳子さん 第4分科会第3分散会

第4分科会は「人権確立をめざすまちづくり」をテーマに、社会教育の視点から報告・討議がされました。第3分散会では、「人権・同和教育指導員として」「国際交流協会職員として」「市同和課職員として」「子ども会活動を支援する一員として」「同和問題自主学習グループの推進者として」という5本の報告がありました。活動を通して見えてきた自分自身の意識や行動が、どの様に仕事に反映してきたかをそれぞれが問うたり、周辺住民の差別意識をもとに今後の活動意義を訴えたりする会なのですが、分散会参加者が発表内容を自分に引きよせ、「自分自身はどうか」「自分の地元では何ができるか」といった議論の広がりが少ない分散会になってしまったのではないかと心残りがあります。なぜ全人教で個々の活動報告をするのかということ、参加者全員で共有することの必要性を感じました。

団体や行政の職員である自分が、そこに住む人の生きにくさに出会う。そして、その改善のために動き、人（点）が人や組織とつながり（線）、やがて社会をつくる集団（輪）となっていく。その後、「ここに生きてよかった」と思える地域や環境がつくられていくと思います。（個の問題は社会の問題）司会者団は、参加する人たちに社会の構成員であることを投げかけ、意見を拾っていく、その力量が求められることを、今さらながらに実感した分散会となりました。

第44回鳥取県研究集会の『記録集』についての訂正とお詫び

8月に開催しました第44回鳥取県研究集会の『記録集』を、11月末よりお送りしておりますが、お手元に届きましたでしょうか？

下記の点について、にじいろ i-Ru (アイル) 田中さん近藤さんより申し出があったにもかかわらず、事務局の不手際で修正がなされておりました。下記のように訂正するとともに、深くお詫び申し上げます。

また、この『記録集』全ての内容につきまして無断転載は固くお断りいたします。よろしくお願ひいたします。
(事務局長 古田久憲)

<訂正及び注意点について>

- ① P7～ P90～ のにじいろ i-Ru (アイル) 田中さん近藤さんの講演をテープ起こしする際に、一人称の「ぼく」を「僕」という漢字で表記しました。しかし、「僕」という漢字には「しもべ・召し使い」という意味もありますので、全て「ぼく」か「ボク」に訂正をお願いします。
- ②P22～ 講演の中で「子どもたちの感想」を紹介していただいております。この感想は子どもたちがにじいろ i-Ru (アイル) の田中さん近藤さんと出会い、講演によって気づいたことやありのままの内心・内情を、田中さん近藤さんへの手紙として書いたものです。その気持ちを大切にするためにもこの感想を他の場所で勝手に広げたり公開したりしないようにお願いします。

研修会・研究集会のご案内

2019年度 市町村人権教育行政担当者研修会

主催 鳥取県人権教育推進協議会

日時 2020年2月20日(木) 午後1時30分～午後4時

会場 倉吉体育文化会館 中研修室

第45回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会

2020年8月6日(木)

会場 米子コンベンションセンター多目的ホール他

第72回全国人権・同和教育研究大会新潟(上越)大会

2020年10月31日(土)～11月1日(日)

全体会 リージョンプラザ上越 インドアスタジアム

分科会 上越市及び妙高市内公共施設